



IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

● 自分で考え、行動する

「小学5年、F先生の思い出」

人権同和教育部 西海

私が小学校5年の時の担任のF先生は、普段は竹刀を持って廊下を歩いていましたが、とても面白くて優しい先生でした。しかし、私たちが道に外れた事をすると、とてつもなく怒る先生でした。これは私たちのクラスがこのF先生を怒らせた時のお話。

5年生も終わりに近づいた3学期のある日、あるクラスメートが悪ふざけで、ある女子に対する差別的な落書きをしました。これがF先生の目に触れ、私たちはクラス全員居残りを命じられ、こっぴどく叱られました。「書かれた生徒の気持ちになって考える」「書いたヤツが一番悪いが、消さずに放ったらかしてる他の者も同罪」「3学期にもなって、ワシが普段から言っている事がまだ分らんか」等、延々と怒られました。

翌朝、先生は教室に来ましたが、「全員視写。」と短く言い、それ以降一切何も話しません。【視写】とは、国語の教科書をひたすらノートに書き写す作業で、私語厳禁。

話そうものなら竹刀が空を切ります。 当時はこの【視写】が私たちにとって一番辛い罰で、これが6時間×3日続き、このままではいけない、と考えた私たちは、教室の後ろにある掲示板に、全員が反省や後悔の思いを書いて、貼る事にしました。「やってはいけない事をした」「〇〇さん、ごめんなさい」「先生の授業をもっと受けてたい」「残り少ないこのクラスの時間を後悔したくない」等、思いのたけをびっしりと、魚のうろこのように掲示板に貼っていきました。



休み時間ごとに、徐々に増えていくメモを見たF先生は、「...よし、視写はもういい。お前らは自分たちの間違いを自分たちで考えて修正しようとした。お前らの思いは受け取った。じゃ、授業やろっか。」と、これまでの日常と優しく面白いF先生が戻ってきました。

今改めてこの出来事を思い返した時、F先生はきっと、『私たちが自分で考えて行動する』事を待っていたのではないか、と思います。正解や不正解、行動した時の他人の目を気にする、今のままで良い、等と考えるのではなく、とにかくやってみる、動いてみる、チャレンジする、という事の大切さをこの時に学んだように思います。その結果、良い結果が生まれたり、以前とは違う流れに向かったりもします。もし動いた結果ダメだったら、その時はその時で次の手を考えればいだけですが。皆さんも、めんどくさがったり、変化を怖がったりせず、体当たりでチャレンジして欲しいです。



また感想やご意見がありましたら、人権・同和教育部もしくは松村までお聞かせください。